

にも豊かでまとまりのある表現活動。レッスン終了時や長期休業時の学習などに取り入れる。

③ ペアやグループ活動の利用

表現活動を高めるには、アイディアを出し合ったり助け合ったりしながら、自由に何でも言い合える雰囲気が必要である。その意味からも、個人活動と合わせて、ペアやグループによる協力学習を、できるだけ取り入れていきたい。

(2) 仮説

習得した言語材料を用いて、友人同志で互いに協力し援助し合いながら、自由に英語で話したり書いたりする活動を、授業の中に計画的に取り入れていけば、身の回りの事柄を英語で表現しようとする意欲も増し、より豊かな表現活動ができるようになるであろう。

3. 計画

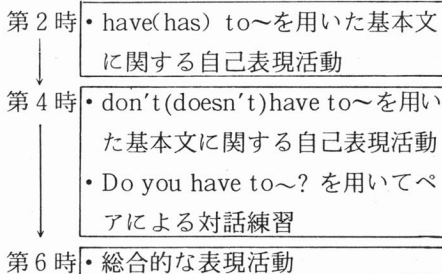
- (1) 方法 一群法による
- (2) 対象 2年2組 (男20名, 女20名, 計40名)
- (3) 組織 個人研究
- (4) 日程 (紙面の都合で省略)

4. 概要と考察

(1) 検証までの準備

① 研究の経過

ア Lesson 6における表現活動の指導



イ 総合的な表現活動に用いる課題の作成

右の絵は、ある日、Jiroと、彼のお母さんと何か話しているところです。みんなで想像力を働かせて、2人の対話文を作りなさい。have(has)to~またはdon't(doesn't) have to を必ず1回以上使ってください。



ウ 評価カードの作成 (紙面の都合で省略)

② 検証授業計画

ア 単元名 L・6 Akio goes to school in San Francisco

イ 指導計画

- ① SVOOの文型と〔1〕の本文の内容把握
- ② have(has)to の用法, 自己表現活動
- ③ 〔2〕の本文の内容把握
- ④ Do you have to~? No, I don't have to~の用法, 自己表現活動
- ⑤ 〔3〕の本文の内容把握
- ⑥ 総合的な表現活動————— (本時)
- ⑦ レッソンのまとめ

ウ 本時の指導

(ア) 本時の目標

- ・提示された絵と条件をもとに、グループで協力し合いながら、対話文を作らせる。
- ・それぞれの作品を発表し、相互評価し合う場を設けることによって、より豊かな表現活動への意欲を喚起させる。

(イ) 指導過程

| 段階 | 学習内容・活動  | 時間              | 指導上の留意点  |
|----|--|-----------------|--|
| 導入 | 1. あいさつ  | 1               | ・ペアで英問英答させる。内容は生活に結びつけたものとする。  |
|    | 2. Do you have to~? を用いての自由対話                                  | 4               |  |
| 展開 | 3. 表現活動<br>(1) 表現活動についての説明を聞く。                                 | 4               | ・絵、評価カード、T P用紙を配る。<br>・評価カードにより評価の基準を説明する。<br><br>・グループは生活班を使う。(6班)<br><br>・想像や発想をめぐらして、対話文を作るよう指示を与える。<br>・できあがった対話文は、T P用紙に書かせる。<br><br>・作った文をOHPで投影し、各グループの代表に発表させる。<br>・独創的な発想を大切に、文法的な多少のまちがいは大目に見る。<br>have to については正しい使い方を指導する。 |
|    | (2) 対話文を作る。<br>・各自で構想をねる。<br>・グループで話し合い場面設定をする。<br><br>・英文を作る。 | 26<br>(3)       |  |
|    | (3) それぞれのグループの発表を聞き評価カードに記入する。                                 | (3)<br><br>(20) |  |
| 閉  |  | 12              |  |
| 終末 | 4. 教師による評価   | 3               | ・それぞれのグループの良い点を認め、今後の表現活動へ意欲を持たせるようにする。  |